

SIP - adus* 自動走行システム

～ 人々に笑顔をもたらす交通社会を目指して～

* adus:Innovation of Automated Driving for Universal Services

平成27年5月22日

内閣府 プログラムディレクター

渡邊 浩之

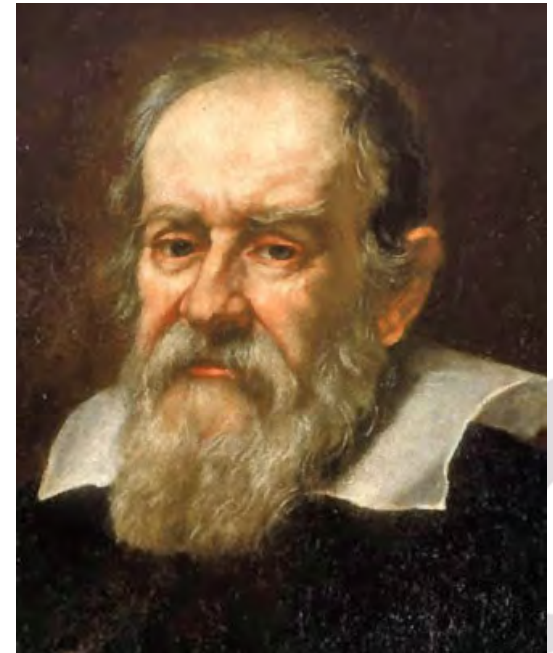
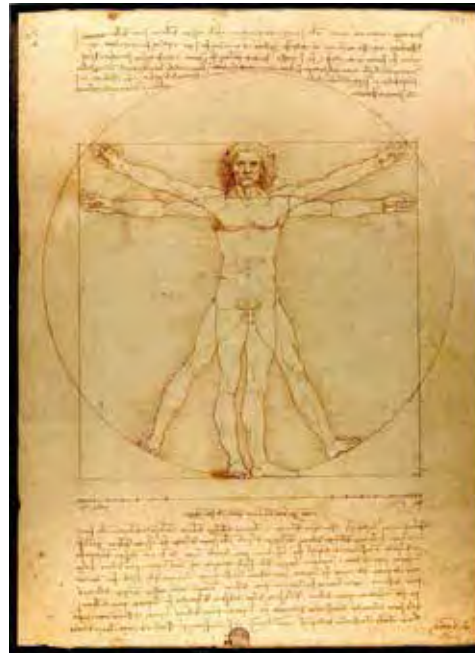


ルネッサンス

“現地現物”に基づく合理的な追求

“価値革命”

『人間中心』への原点回帰



レオナルド・ダ・ヴィンチとウィトルウィウスの人体図

ガリレオ・ガリレイ

アポロ計画

- 1) 「10年以内に人間を月に送る」
- 2) 目標達成のプロセスと要素技術を明確化
- 3) 各要素技術の完成を前提に全体計画構築
- 4) 要素技術毎の確実な開発推進

- ⇒ 『高い目標設定』
- ⇒ 『バックキャストिंग』
- ⇒ 『統合的アプローチ』



ライト兄弟

『現場主義』による有人動力初飛行

- 精緻な工作力とアイデア
- 風洞実験による飛行メカニズム解明
- 飛行実験の繰り返しによる改良



(出典: Library of Congress, Prints & Photographs Division)

SIP創設の背景

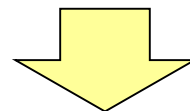


私たちは再び**世界一**を目指します。
世界一を目指すためには、**なんと**
言っても**イノベーション**であります。

安倍政権として、新しい方針として、
イノベーションを重視していく。その
ことをはっきりと示していきたい。

第107回総合科学技術会議 総理発言

科学技術イノベーション総合戦略（平成25年6月7日閣議決定）
日本再興戦略（平成25年6月14日閣議決定）



総合科学技術会議・イノベーションの司令塔機能強化

総合科学技術・イノベーション会議 (CSTI)

機能

内閣総理大臣及び内閣を補佐する「知恵の場」。
我が国全体の科学技術を俯瞰し、各省より一段高い立場から、総合的・基本的な科学技術政策の企画立案及び総合調整を行う。平成13年1月、内閣府設置法に基づき、「重要政策に関する会議」の一つとして内閣府に設置。

構成

内閣総理大臣を議長とし、議員は、内閣官房長官、科学技術政策担当大臣、総理が指定する関係閣僚(総務大臣、財務大臣、文部科学大臣、経済産業大臣)、総理が指定する関係行政機関の長(日本学術会議会長)、有識者(7名)(任期2年(平成26年5月19日以降に任命される者は3年)、再任可)の14名で構成。

総合科学技術・イノベーション会議有識者議員 (議員は、両議院の同意を経て内閣総理大臣によって任命)



原山優子議員
(常勤)

久間和生議員
(常勤)

橋本和仁議員
(非常勤)

内山田竹志議員
(非常勤)

小谷元子議員
(非常勤)

中西宏明議員
(非常勤)

平野俊夫議員
(非常勤)

大西隆議員
(非常勤)

元東北大学教授

元三菱電機
(株)常任顧問

東京大学教授

トヨタ自動車
(株)取締役会長

東北大学原子分子材料科学高等研究機構長兼大学院理学研究科教授

(株)日立製作所
執行役会長

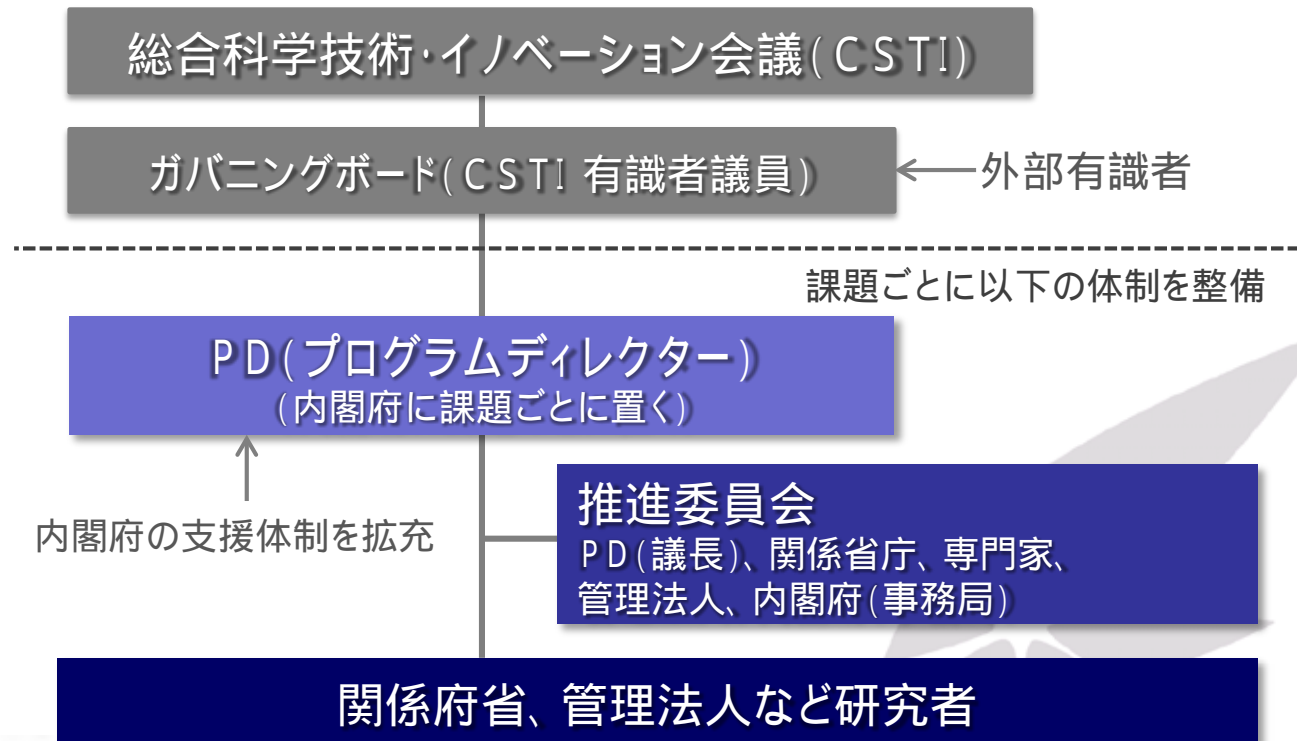
大阪大学総長

日本学術会議
会長






















[関係行政機関の長]

SIPプログラムの概要

府省・分野の枠を超えた横断型プログラム。
社会的に不可欠で、日本の経済・産業競争力にとって重要な課題を
総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)が特定、予算を重点配分。
課題ごとにPD(プログラムディレクター)を選出、
基礎研究から出口(実用化・事業化)までを見据え、
規制・制度改革や特区制度の活用等も視野に入れて推進。



自動走行システムに係る国際的な動向

	1990	2000			2013				
欧州	<p>1996-2003 Chauffeur / Promote Chauffeur II</p> 	<p>2005-2009 KONVOI</p> 	<p>2008-2011 HAVE-it</p> 	<p>2009-2011 CITYMOBIL</p> 	<p>2009-2012 SARTRE</p> 	<p>2011 GCDC</p> 			
				<p>2011 ULTRA</p> 					
米国	<p>1939 Futurama</p> 	<p>1950's GM Firebird 2</p> 	<p>1997 National Automated Highway System</p> 	<p>2003 PATH: Bus</p> 	<p>2004-2005 Grand Challenge</p> 	<p>2006-2007 Urban Challenge</p> 	<p>2008 ITS WC New York</p> 	<p>2010,2011 PATH: Truck</p> 	<p>2011 Safety Pilot</p> 
					<p>2008 Cooperative Autonomous Vehicle</p> 				
日本	<p>1970 Intelligent Vehicle (Japan)</p> 	<p>1996 Automated Highway System ⇒Advanced Cruise-Assist Highway Systems (Japan)</p> 	<p>2005 Intelligent Multimode Transit System (Japan)</p> 	<p>2008-2012 Energy ITS (Japan)</p> 					

我々がなすべき事

- 1 . 志の高い目標設定（地球的課題の解決）
- 2 . バックキャストイング
- 3 . 統合的アプローチと産業構造の改革
- 4 . 国際連携と社会受容性の醸成
- 5 . ビッグヒット 市民目線を忘れないこと

